

令和7年度 東金市立保育所・認定こども園 自己評価 (所・園内研修まとめ)

全所・園共通テーマ

「生きる力を育む」



写真:第2保育所「どろんこ日和」

も く じ

保育理念・方針・めざす子ども像	1
令和7年度 教育及び保育の内容に関する全体的な計画	2
所内研修まとめ（第2保育所）	7
「第2保育所の『なぞルール』さがし」	
所内研修まとめ（第3保育所）	13
「夢中になって遊べる環境構成と援助」	
園内研修まとめ（豊成こども園）	19
『とびだせ！「やってみたい」が見つかる戸外遊び』	
園内研修まとめ（福岡こども園）	25
「自然を通して様々な体験を楽しもう」 ～地域との繋がりから遊びを深めよう～	
園内研修まとめ（正気こども園）	31
「わくわくドキドキが生まれる環境作り ～伸び伸びと遊ぶ子どもたちを目指して～」	

各所・園の資料は、概ね次のような構成となっています。

○表紙

○所・園のサフテーマ（昨年度の反省・子どもの姿・保育者の願い・仮説・手立て・研修方法等）

○外部講師による教育・保育の質の向上のための巡回指導を受けての課題等

○所・園内研修の成果と課題

○自己評価に関する観点からの評価

【1】保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

【2】計画に基づく評価

【3】家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

○所・園内研修の総まとめ

○所・園内研修の事例集 ※事例集は別冊とし、非公表としています。

保育理念

乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。

教育・保育目標

「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む

方針

- 「生活」と「遊び」を通した学びにより様々な体験を重ね、豊かな感性や創造性、好奇心を育てます。
- 子どもたち一人一人の個性を大切にし、そのよさをさらに高め、子どもたちが自分を伸びやかに発揮できるよう努めます。
- 同年齢、異年齢の友達とのかかわりの中で、お互いを大切に思いやる心を育てます。
- 子どもたちが健康で安全に生活できる環境を整え、丈夫な体づくりのための食育の推進や基本的な生活習慣・態度を身に付けられるよう支援します。
- 子どもたちが健やかに成長していけるよう、家庭や地域との連携を密にし、共通理解を図ります。
- 地域における子育ての支援のために、乳幼児の教育・保育に関する相談に応じ、助言するなどの社会的役割を果たします。
- 一人一人の特別なニーズに応じた適切な支援を行うとともに、集団活動を通して、全体的な発達を促します。
- 学校教育への円滑な接続のための基礎を培います。

めざす子ども像

- * 仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分にに関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。
- * 思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。
- * 自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。
- * あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	子どもの教育 及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
教育・保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む		1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめなくて挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。		2歳児（満3歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。
			3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
			4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
第2保育所の教育・保育目標	「やってみたい」を夢中でできる子		5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。
●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00 *預かり保育 14:00～16：30 ●保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00） *延長保育時間→7:00～、～19:00 ●認定こども園：基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所の利用は保育所と同じ。 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。		行事のねらい	日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割	

特に配慮すべき事項					
一人一人を大切に教育・保育	発達継続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切に教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
子どもの人権に十分配慮し、一人一人のありのままの姿に寄り添い、安心して自分の気持ちを表すことができるよう関わっていく。子どもたちの育ちを認め、自己肯定感を育てていけるような関わりをしていく。	個人差があることを十分考慮しながら、一人一人の発達を保障するために、職員が共通理解を図り、年齢にあった環境を整え発達を促していく保育を行う。	生活や遊びの中で“見て学ぶ”経験を大切にし、互いに刺激しあう関係性を築いていけるような環境（人的、物的）を整える。	心も身体も共に健康であるよう、様々な経験が出来る環境を整える。安全面においては、遊具等の安全点検や、園外での歩行の仕方、保育士の配置等十分に配慮する。	「食育年間計画」に基づき、栽培や収穫を通し食への関心を高める。たくさん遊び空腹を感じ、よく食べて空腹を満たすという遊びと食事の関係性も大切にする。	どのような個性をもつ子ども皆同じ仲間という認識のもと、保育所全体で育てていくという職員の共通理解をもって関わっていく。また、家庭や専門機関との連携を図る。

教育課程・育ちの過程						家庭との連携	
	年齢	0歳児	1歳児	2歳児（満3歳児）	3歳児	4歳児	5歳児
養 護	生命の 保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧を受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。
	情緒の 安定				○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。 ○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。 ○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。 ○活動を通して、遊びの中のいろいろななまじりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。 ○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。 ○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。 ○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。 ○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。 ○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。 ○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。
教育 及び 保育	健やかに 伸び伸び と育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。 ○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。	健康	○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。		
	身近な人 と気持ちが 通じ合う	○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	人間 関係	○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。	○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。		
	身近なものと 関わり感性が 育つ	○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	環境	○身の回りの環境に興味や関心をもち、様々な遊びを楽しむ。	○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。		
			言葉	○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。		
			表現	○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。	○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。		
2							

基本理念		乳幼児期に人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。				子どもの教育 及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。						
教育・保育目標		「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む					1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える。						
めざす子ども像		○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分にに関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめなくて挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。					2歳児（満3歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分でしようとする。						
第3保育所の教育・保育目標		豊かな自然の中でのびのびと遊ぶ。					3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。						
							4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。						
						5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。							
●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00　　＊預かり保育　14:00～16：30 ●保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00）　　＊延長保育時間→7:00～、～19:00 ●認定こども園：基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所の利用は保育所と同じ。 ＊2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。						行事のねらい	日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割　　②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割　　④健康と安全を守る役割　　⑤保育を厚くする役割							
特に配慮すべき事項														
一人一人を大切に する教育・保育		発達の連続性に 配慮した教育・保育		異年齢との関わりを 大切に する教育・保育		子どもたちの健康と 安全を守る教育・保育		食育を推進する教育・保育		インクルーシブな教育・保育				
子どもの人権を十分に配慮し、一人一人の子どもが主体的に活動ができるようにしていく。子どもの気持ちに寄り添った保育を行い健全な心身の発達を図っていく。		一人一人の発達状態に合った保育を定期的、継続的に把握しながら、年齢に応じた環境を整え、職員が共通理解を図り、保育を行っていく。		幼児組は、3、4、5歳児クラス縦割り保育を行う中で、異年齢児との生活や遊びを通して他者への思いやりを育むと共に、乳児組、幼児組も関わる機会を多くもち、思いやる気持ちを大切にしていく。		全職員が相互に連携し、健やかな生活の確立を進めていく。また、事故防止のため、定期的に安全点検、訓練を全体で行っていく。衛生面には十分配慮し、感染症拡大防止に保育所全体で対応していく。		保育者や友達と一緒に食事を楽しくにできるようにしていく。また、クッキングや菜園作りを通して、食への興味や関心を高め、感謝して食べようとする気持ちが育つように働きかけていく。		家庭や関係機関と連携した支援を行うため、障害を職員全体で共通理解し、保育を進めていく。みんなと一緒に共に学び、共に育つことができるようにしていく。				
教育課程・育ちの過程									家庭との連携					
	年齢	0歳児	1歳児		2歳児（満3歳児）		3歳児		4歳児		5歳児			
養 護	生命の 保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。		○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分に把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。		○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。		○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。		○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。		○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。		
						○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。		○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。		○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。 ○身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、いろいろな遊びや生活に取り入れていく。				
	教育 及び 保育	健やかに 伸び伸びと育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。		健康		○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。		○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。		○いろいろな遊びの中で必要なものを友達と一緒に考えたり、工夫したりしてつくり、遊びに生かして使う。		○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。	
		身近な人と 気持ちが通じ合う	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。		人間関係		○簡単な身の回りのことを自分でしようとする。 ○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。		○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。		○保育者や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。		○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	
身近なものと 関わり感性が育つ		○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。 ○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。		環境		○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。 ○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。		○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。		○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。		○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。		
園の自己評価									評価方法			巡回指導・所内研修の振り返り		
子どもたちの興味関心を探り、夢中になって遊べる環境作りを情報交換を行いながら試行錯誤し、環境構成を行った。室内外問わず異年齢交流も深まり関わりを持つことができた。制作など大人がどこまで関わるか、声掛けの量やタイミング、援助など考慮しなければならぬことも学ぶことができた。														

基本理念	乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。	子どもの教育 及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。
教育・保育目標	「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む		1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分であろうとする気持ちが芽生える。
めざす子ども像	○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜ぶ。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちを持ち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。		2歳児（満3歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分であろうとする。
豊成こども園の教育・保育目標	とびだせ！「やってみたい」が見つかる戸外遊び		3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育教諭や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。
			4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。
			5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。
●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00 *預かり保育 14：00～16：00 ●こども園・保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16：00） *延長保育時間→7：00～、～19：00 ●認定こども園：基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所の利用は保育所と同じ。 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。		行事のねらい	日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割	

特に配慮すべき事項

一人一人を大切にせる教育・保育	発達の連続性に配慮した教育・保育	異年齢との関わりを大切にせる教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育
子どもの家庭環境や状況を理解し、集団生活の中で、個性を認め、一人一人に寄り添い、友達、保育者、地域の人々など、様々な人との関わりを大切にしながら、子どもが意欲をもって生活や活動ができるようにしていく。	一人一人の発達に合った活動や生活ができるよう計画を立てて働きかけを行い、子どもが自信をもって行動できるように個々の発達を保障していく。	遊びの中で異年齢児との関わりを持ち、思いやりややさしさの心、いたわりの心をもてるよう、人的環境・物的環境を整える。	安全、安心の環境の下、職員間の連携を密にとりながら、様々なことに自分で気づき行動できる子どもを育てていく。年齢に応じた安全に対する意識がもてるようにする。事故防止のため、全体で定期的に安全点検や訓練を行っている。	クッキングや菜園作りを通して、美味しく食することで食べることの楽しさや「食べたい」という意欲を育てていくとともに、食への興味、関心を高める。	一人一人の個性を大切にし、すべての子どもにとって充実していて楽しく、優しい教育・保育を行う。家庭と専門機関と連携を図りながら、全職員が共通理解をもって関わっていく。

教育課程・育ちの過程

	年齢	0歳児	1歳児	2歳児（満3歳児）	3歳児	4歳児	5歳児	家庭との連携
養 護	生命の 保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。 ○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。	○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。 ○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。	○、1、2歳児では、連絡帳でのやりとりや登降園時に保護者と情報を共有するなど密に連絡をとりあい保護者との信頼関係を築いていく。クラスごとにこども園での子どもの様子を可視化（ポートフォリオ・ドキュメンテーション）し育ちや学びの様子を発信する。
		○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切にし、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○自分でやりたいという気持ちを大切にし、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。	○体を使ったいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育教諭を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組む、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。 ○友達と共通の目的に向かって活動することの楽しさを味わう。	小学校への円滑な接続に向けた教育・保育 小学校との連携を図り、市内共通アプローチカリキュラムを活用し、卒園までに育てて欲しい10の姿を共有して円滑に小学校生活が送れるようにする。
	情緒の 安定							地域との連携を大切にせる教育・保育 環境保全会と連携し、広大なチューリップ畑の球根とり、球根植えを通して地域の方とふれあったり、食生活改善会の手洗い教室に参加したりする中で、地域の方に支えられていることを知る。
								保護者及び地域の子育て家庭への支援 毎週火曜日に園庭開放を行い未就園児とその保護者が集える場を提供する。遊びの発信や相談を行うことで、保護者支援をしていく。
教育 及び 保育	健やかに 伸び伸び と育つ	○初歩的な運動機能が発達する。 ○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。	健康 ○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。 ○簡単な身の回りのことなどに興味をもつ。	○簡単な身の回りのことを自分で行うようにする。				研究テーマ 生きる力を育む 園舎内の環境構成を考え設定したことで、子どもたちが自己選択・決定しながら遊びを楽しむことができたが、戸外の環境構成が十分ではないかと振り返った。職員が共通理解をし、戸外でも子どもたちがやってみたいと環境構成を考え設定し、遊びの変動や変容を研究していく。
	身近な人 と気持ちが 通じ合う	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。 ○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。	人間関係 ○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。	○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。	○活動を通して、遊びの中のいろいろななきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。	○保育教諭や気の合う友達の話に興味をもって聞いたり、自分の思っていることを話したりする。	○自分の考えを相手に伝えたり、友達の良さを認めたり、その考えを取り入れたりしながら遊びを進めていく。	
	身近な人 と気持ちが 通じ合う	○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。 ○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	環境 ○身の回りの環境に興味や関心を持ち、様々な遊びを楽しむ。	○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。	○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。	○友達と一緒に、思ったことや感じたことを、様々な方法で表現する楽しさを味わう。	○友達とイメージを共有しながら、自分なりの動きや言葉などで表現して遊ぶ楽しさを味わう。	
	身近なものと関わり 感性が育つ	○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。	言葉 ○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。	○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。			
4								表現 ○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。

とびだせ！「やってみたい」が見つかる戸外遊びを研究テーマとし、園内研修や週指導計画会議等の場で、保育への取り組み、振り返り、反省、改善すべき点を職員間で話し合い、共通理解を図った。外部講師より、子どもの遊びの動きとして「幼児期に身に付けたい36の基本動作」があり、一人一人が遊びの中で経験する動きがどれも大切になってくることを学んだ。今後も体の動きを意識した環境やコーナー作りなど取り組んでいこうと思う。

基本理念		乳幼児期が人格形成の基礎を培う重要な時期であることを踏まえ、子どもたちとの信頼関係を十分に築き、健やかな成長が図れるよう家庭や地域と連携し、より良い教育・保育の環境を創造する。		子どもの教育 及び保育目標	0歳児	一人一人の安定した生活リズムで気持ちよく過ごす。				
教育・保育目標		「心豊かにたくましく、未来を生きる力」を育む			1歳児	安心できる保育者との関係の下で、自分であろうとする気持ちが芽生える。				
めざす子ども像		○仲良く元気に遊べる子・・・身近な人と十分に関わり、元気に体を動かすことを喜び。 ○思いやりのあるやさしい子・・・思いを伝え合い、相手の気持ちに気付く。 ○自分で考えて行動する子・・・なぜ、どうしてという気持ちをもち、試し、やってみる。 ○あきらめないで挑戦する子・・・見通しをもって活動に取り組み、最後までやり通そうとする。			2歳児（満3歳児）	基本的な運動機能が発達し、身の回りのことを自分であろうとする。				
正気幼稚園の教育目標		伸び伸びと遊ぶ正気っ子			3歳児	基本的な生活習慣を身に付け、保育者や友達と関わりながら遊ぶ楽しさを知る。				
					4歳児	友達との関わりを深めながら、いろいろな活動に取り組む楽しさを味わう。				
				5歳児	生活や遊びの中で共通の目的を持って友達と協力しながら活動し、達成感や充実感を味わう。					
●幼稚園：基本保育時間→9：00～14：00 *預かり保育 14:00～16：00 ●保育所：基本保育時間→7：30（8：00）～18：30（16:00） *延長保育時間→7:00～、～19:00 ●認定こども園：基本保育時間→幼稚園の利用は幼稚園と、保育所の利用は保育所と同じ。 *2歳児クラスでは、満3歳未満と満3歳以上の子どもが混在する中で一体的に教育及び保育が行われるという観点から、実際の教育及び保育の現場においては月齢差を考慮した関わりと見通しを持って子どもと接する。				行事のねらい	日々の園生活の連続性のなかで、発達等園児の実態に応じて必要なものを行事として行い、行事の運営観点を以下の5項目に分類し実施する。 ①その時々の子どもの発達や成長を知らせる役割 ②親子の触れ合いを促す役割 ③伝統文化を知らせる役割 ④健康と安全を守る役割 ⑤保育を厚くする役割					
特に配慮すべき事項										
一人一人を大切にする教育・保育		発達の連続性に配慮した教育・保育		異年齢との関わりを大切にする教育・保育	子どもたちの健康と安全を守る教育・保育	食育を推進する教育・保育	インクルーシブな教育・保育			
・全職員で園児の実態把握に努め、幼児理解をし信頼関係を築いていく。 ・保育教諭自身が柔軟な視点や思考を心がけ、園児の発達を捉えた適切な環境構成を行い遊びをとおして学びの芽を養う。 ・自他の違いに気付き、互いに認め合い、一人一人が大切な存在だと感じる心を育てる。		・各学年において「幼児教育において育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しながら、指導計画を立てていく。 ・発達課題を踏まえた目標設定、実践、評価、改善（PDCAサイクル）を積み重ねていく。		・年齢が小さな学年への世話、活動への招待などの思いやりの気持ち、年長児への憧れの気持ちを持つなど、心の育ちに目を向け、計画的にかかわりを深める場を設定していく。 ・他学年の保育内容を担当学年にどのように活かしていくのか、計画立案時に具体的な協議をしていく。	・安全計画を基に全職員で共通理解を図るとともに、月1回以上の避難訓練を実施し、緊急時に備える。また、実施後の反省をその後の訓練やマニュアルの見直しに活かしていく。 ・全職員が日々の生活の中で安全に対する意識を持ち、繰り返し指導にあたる。また、子ども自身にも状況に応じた危険回避能力が身に付くよう指導を重ねる。	・食を通じて、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。 ・栽培活動を通して、食に関する意識を高めていく。	・支援を要する園児について、必要な援助を探り、全職員で同じ対応ができるようにする。 ・関係機関との連携のもと、指導方法を学ぶ。			
教育課程・育ちの過程										
	年齢	0歳児	1歳児		2歳児（満3歳児）	3歳児	4歳児	5歳児	家庭との連携	
養 護	生命の 保持	○安全で清潔な環境を整える。 ○生理的欲求を満たし、心地よく過ごせるようにする。 ○気温や湿度に留意しながら薄着の習慣を付け、丈夫な体づくりをしていけるようにする。 ○スキンシップを多く持ち、安心して過ごせるようにする。 ○信頼できる保育者と触れ合い、愛着関係を深め、心地よい生活を送れるようにする。	○安全で清潔な環境を整える。 ○運動機能が発達するため、子どもの行動範囲を十分に把握し環境の安全に配慮する。 ○一人一人の健康状態や生活リズムを把握し、快適に過ごせるようにする。 ○不安や欲求を受け止め、スキンシップを多く持ち、愛着関係を深め、安心して過ごせるようにする。 ○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。		○一人一人の健康状態を把握し、快適な生活ができるようにする。 ○基本的な生活習慣の自立に向けて、一人一人の状況に応じた援助をする。 ○一人一人の発達段階を把握し、危険のないよう環境を整え、挑戦する行動を見守っていく。 ○一人一人の気持ちを受け止め、共感し、信頼関係を深める中で、子どもが安心して気持ちを表すことができるようにする。	○基本的な生活習慣を身に付けられるように援助する。 ○できることが増え、自分でやり通そうとするなど、自分の意志で生活しようとする気持ちを認め、成功体験を積み重ねていけるようにする。	○運動量が増し、活発に活動できるように配慮する。 ○一人一人が安心して自分の気持ちを表現し、自己肯定感をもち意欲的に活動できるようにする。	○体や病気について関心を持ち、健康的な生活に必要な習慣や態度を身に付けられるようにする。 ○一人一人の成長を認め、それぞれが満足感や達成感を十分に味わえるようにする。	・保護者が安心して相談できる雰囲気作りを心掛け、子どもの育ちと一緒に考え家庭と連携した保育の充実にも努める。	
		○ゆったりと過ごし、食事や睡眠などの生活リズムが整うようにする。 ○喃語や指さすものを理解し、子どもの気持ちに寄り添いながら応答していく。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、援助しながら満足感を感じられるようにする。 ○信頼関係が深まる中で、安心して自分の気持ちが伝えられるようにしていく。	○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう信頼関係を築いていく。 ○保育者が仲立ちをしながら一緒に遊び、友達との触れ合いを楽しめるようにする。 ○自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする。 ○自我の芽生えを受け止めながら、心の動きや成長を知り安定して過ごせるようにする。	○様々な場面で現れる自我の育ちを丁寧に受け止め、見守っていく。 ○保育者とのつながりを基に、友達にも関心を広げ、関わり方を伝えながら一緒に遊ぶ楽しさが味わえるようにする。	○体を使っいろいろな遊びを楽しむ。 ○保育者を仲立ちとしながら、友達と関わって遊び、みんなと一緒に楽しさを味わう。 ○気の合う友達と遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○異年齢児と関わることを楽しみ、遊びを模倣したり、取り入れたりする。	○全身を使って、いろいろな遊びに挑戦する。 ○危険な場や遊び方などを知り、安全に気を付ける。 ○気の合う友達とのつながりを深めながら、遊びを楽しむ。 ○身近な環境の中で関心のあるものや年長児のしている遊びを、自分たちの遊びや生活の中に取り入れていく。	○友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、みんなで一緒に遊ぶ充実感を味わう。 ○危険な場や遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動しようとする。 ○生活や遊びに見通しをもって活動する。			
	情緒の 安定					○十分に体を動かし、遊具や用具を使った簡単な遊びを楽しむ。	○身近な自然・素材・空間などを自分なりに見立てて遊ぶ。	○いろいろな素材に触れて、その感触を楽しむ。	○活動を通して、遊びの中のいろいろななきまりに気付いたり、必要な言葉を知ったりする。	○感じたことや思ったことを保育者や友達に自分なりに表現する。
教育 及び 保育	健やかに 伸び伸び と育つ	○初歩的な運動機能が発達する。	健康	○運動機能が発達し、探索活動を楽しむ。	○簡単な身の回りのことを自分ですようとする。	○自我が芽生え、友達との関わりの中で簡単なルールがあることを知る。	○身の回りの様々なものに関わり、好奇心を持つ。	○保育者を仲立ちとして、生活や遊びの中で簡単な言葉のやり取りを楽しむ。	○保育者や友達と一緒に、見立て・つもり遊びを楽しむ。	
		○食欲・睡眠・排泄などの生理的欲求が満たされ、快適に過ごす。		人間 関係						○保育者や友達に関心を持ち、真似をしたりして自ら関わろうとする。
	○身近な保育者と過ごすことを喜ぶ。	環境								○身の回りの環境に興味や関心を持ち、様々な遊びを楽しむ。
	○保育者の言葉掛けが分かり、自分の気持ちや欲求を片言や身振りで伝えようとする。			言葉						○話し掛けややり取りの中で、声や言葉で気持ちを表そうとする。
○保育者の声や表情に安心感を覚え、快・不快感を表す。	表現	○保育者と一緒に模倣遊びをしたり、リズムに合わせて体を動かしたりする。								
○身の回りの環境に興味を持ち、見たり、聞いたり、触れたりする。										
家庭との連携										
								・保護者が安心して相談できる雰囲気作りを心掛け、子どもの育ちと一緒に考え家庭と連携した保育の充実にも努める。		
								小学校への円滑な接続に向けた教育・保育		
								・「幼児教育において育みたい資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえながら、小学校以降の生活や学習の基礎を培い、小学校教育に滑らかにつないでいく。 ・交流会を通じ、小学校を身近に感じる機会を作る。 ・保幼小連絡会議等にて情報交換に努める。		
								地域との連携を大切にする教育・保育		
								・地域との連携や交流を通し、園生活を豊かにすると共に、地域と共に子育てに取り組む体制の確立に努める。		
								保護者及び地域の子育て家庭への支援		
								・地域における子育て支援のためのセンター的な役割を果たす。（園庭開放にこころルーム）		
								研究テーマ		
								生きる力を備えた幼児の育成		
								わくわくドキドキが生まれる環境作り ～伸び伸びと遊ぶ子どもたちを目指して～ 園内研究サブテーマのもと、月1回程度の園内研修や週案会議での話し合い、外部講師によるアドバイスを参考にテーマに迫っていくことで、子どもたちの育ちに繋げていく。		
								園の自己評価		
								評価方法		
								園内研究を通して話し合い・振り返り		
								園内研究のテーマに添い、職員会議、週案会議、園内研修の場で一人一人の職員が思いを出し合い、実践、振り返り、改善を重ね共通理解を図ってきた。全職員で全園児を見ていくという意識も高まり、安心安全な園経営に繋がった。行事後の保護者アンケートでは、子どもの成長について評価していただいている。今後も子どもたちの健やかな成長のために、研究を進めていきたい。		

所内研修まとめ

市立保育所・認定こども園共通テーマ 「生きる力を育む」

第2保育所 サブテーマ

第2保育所の『なぞルール』さがし



東金市立第2保育所

市内保育所・こども園共通テーマ

『生きる力を育む』

☆昨年度の課題点

- ・保育者自身が知識や視野を広げていく必要があると実感した。
- ・自分の考えにとらわれず、他の職員とも情報共有や話し合いを重ねることが必要であった。
- ・善悪など「～させない」「～してはいけない」という価値観で偏らず、保育所全体で一人一人に応じた保育を行うことの難しさと大切さを感じた。

☆課題点から今年度の様子を話し合う中で…

〈今年度の課題・保育者の願い〉

- ・保育者の横のつながりの希薄さや、保育観や価値観の違いから共通理解が不足していることが課題となった。
- ・子どもの姿の認識のズレにより、子どもの自由な遊びが制限される場面があった。
→それらは実は、根拠のない『なぞルール』ではないか？と振り返る必要性を感じた。
- ・「それは本当に子どものためになっているのか？」という視点を大切にしながら、保育者自信が価値観を問い直し、固定観念にとらわれずに保育を再構築していこうとする意識が芽生え始めている。



保育者間で共通理解を深めながら、子ども一人一人の姿を大切にし、安心して遊び込める環境の中で、自信や主体性が育まれる保育を目指していきたい。

サブテーマ：第2保育所の『なぞルール』さがし

【仮説】

- ・子どもの自由な遊びや主体性を保障するためには、保育者間の共通理解が必要である。
- ・「当たり前」「良かれと思って」の保育やルールの中には、根拠のない『なぞルール』が存在し、子どもの行動や育ちを制限していることがあるのではないか。
- ・こうしたルールを見直し、風通しのよい対話的な職場環境を築くことが、保育者自身の成長と子どもへのよりよい関わりにつながるのではないか。

【手立て】

- ・所内研修で『なぞルール』をテーマに意見交換を行い、日々の保育や些細な疑問を振り返る視点を養う。
- ・職員同士が日常的に声を掛け合い、言いづらさや価値観の違いにも向き合える関係性づくりを進める。
- ・子ども一人一人が安心して遊びに没頭できるよう、クラス間・職員間の壁を取り払う工夫を行う。
- ・保育者が自身の強みや弱みを自覚し、互いに補い合えるチーム保育を目指す。

【研究方法】

- ・週一回の週案会議や、所内研修などの話し合いを通じて、日々の保育や子どもの様子を共有・検討する。
- ・気付いた『なぞルール』や課題を職員間でまとめ、全体の保育の質の向上に向けて改善策を立案する。
- ・巡回指導や他施設の事例を参考にしながら、継続的な見直しと対話を大切にしていく。

《伊藤先生の巡回指導を受けて》

◎1回目（5月）

- 5歳児・片付けは職員と一緒にやっていく上で身に付いていくもの。0歳児頃からの積み重ねで自分の中で切り替えができるようになっていくもの。強制するのではなく、子どもたちが納得いくまで遊ばせてみることで、自分たちで自然とできるようになるのではないかな。
- ・2クラスだと子どもたち同士で刺激が起きにくい。クラスの壁を取っ払った活動を増やしたらどうか。困っている子がいた時に助ける力などが身に付いていくのではないかな。
- 4歳児・進級しても昨年度と同じ部屋であり子どもたちも安心感をもっていると思う。絵本コーナーが押し入れの狭いスペースにあり、昨年度にはなかった秘密基地のようなスペースができたことで、同じ部屋であっても新鮮味があった。
- 3歳児・言葉の発達が著しい時期…職員に知っている言葉で沢山話しかけ、楽しんでいる姿が多く見られた。職員との一対一の関わりを大切にしていけるとよい。
- ・ままごとコーナーが広い…保育者がコーナーにいたことで、子どもたちが何人も遊んでいた。今後は子どもの姿をみて、コーナーを小さくしたり、ごっこ遊びにつなげていったりするとよい。
- 乳 児・絵本は一対一で読むためにつくられているが、クラスで楽しむ時間があることもとても大切。ただの場つなぎや時間つぶしで読むことはあってはならないが、絵本を楽しむ時間はあってよい。
- ・今の段階で完璧に片付けることができなくても問題ない。少しでも片付けることができれば〇とするでもいいのでは。

◎2回目（11月）

- 5歳児・夏ごろから合同保育を行っているのはいいと思う。保育所は、集団で過ごすための力を養う場所なのではなく、一人一人が育っていくために集団の力を使っていくための場所。『グループダイナミクス』
- ・子どもたちの育ちはつながっている。経験を積ませてあげることが大切。
- 4歳児・戸外にコーナーが必ずあるのは第2保育所の強み。近年、暑くて夏季に戸外へ出られず、戸外での集団遊びを行う機会が減っているため、子どもたちが主体となって遊びをつくり上げていくという部分は卒園までにできるようになっていけたらよいと思う。
- ・「たたかいごっこ」は発展性のない遊びなので、保育者としては別の方向性に遊びを広げていっていいと思う。
- 3歳児・廊下を含めて環境構成なので、廊下で「ねこちゃんごっこ」をしている子も、コーナーや部屋に好きな遊びがなかったが、何か出来事が欲しいと思っている。それらの出来事を遊びに広げていってもよいのでは…
- ・4～5歳児になった時に、職員がいなくても遊べるのは3歳までの経験の積み重ねなので、まずは職員と遊ぶ楽しさを感じられるようにしていく。
- 乳 児・第2保育所の物理的な環境として、各部屋からすぐ戸外が見える、行けるという部分はとてもよい。2つの砂場が近くにあることで、異年齢交流となり、いい刺激になっている。4歳児と1歳児の関わりは、近くに職員がいなくても自然に行われていた。
- その他・固定遊具をする際に大人が手伝ってはいけない。手伝って登れた＝登れていない。アストロキャッスルは確かに高くて危険はある。設置されたときのねらいと、今の職員がもつねらいが一致しないのであれば、使用しない・撤去するののも一つの手なのではないかな。
- ・ブランコは職員の中に明確なねらいがあるのであれば設置してよいと思う。
ただ、ブランコは一見遊んでいる風で、暇つぶしだったり他に遊びを見つけられなかったりということもあるので、ブランコに頼りすぎはいけない。

<成果と課題>

	成 果	課 題
乳児	・友達と遊べるようになった子、一人でじっくり遊ぶのが好きな子など、子どもの発達だけでなく、一人一人の個性と向き合い、子どもの姿から小さな変化や気付きを汲み取ることで今まで以上に興味や関心を日々の保育に取り入れることができた。 ・砂場での異年齢交流が第2保育所の強みだと知り、更に盛り上げるにはどうしたらよいのか考えるきっかけとなったり、側に担当がいなくても安心して遊ぶ子どもたちを見守ったりできるようになっていった。 ・雨の日ばかりに使用されていたホールを、子どもたちが遊びたい時に異年齢児と関わりながら遊べるようにしたことによって、遊びの幅が広がっただけでなく、これまで以上に幼児の姿に憧れを抱き、一緒にやってみようとしていた。	・子どもの発達や特性、興味・関心を日々の保育に取り入れることで、小さな変化や気付きにつながった一方で、子ども一人一人の「やりたい」や思いを大切しながら、保育者がどのようなねらいをもって関わるのかを明確にすることの難しさも感じた。 ・集団の力を生かしながら一人一人が育っていくためには保育者が同じ視点を持ち、必要な援助と見守りのバランスを共通理解していきたい。 ・ホールを開放し、今まで以上に活発に行われるようになった異年齢児での交流をしっかりと受け止め、今後も楽しめるようにしていくことに加え、子どもの居場所把握や安全管理などの面では、職員間の連携やフリーの先生の配置など、全職員で共通理解をもてるようにしていきたい。
幼児	・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿をもとに、“この時期までにはここまでの経験”という保育者の願いや固定観念にどこかとらわれていたが、話し合いの中でそこに固執するのではなく、“今の子どもの姿”に目を向けることの大切さに気付き、子どもの思いを汲み必要な環境を整えていくことができた。 ・日々の保育を振り返り、疑問に感じたことや今後必要になる環境など職員間で話し合い、共有することで、同じ視点にたって保育を見直すきっかけとなり、“させる”“やらされる”保育ではなく、子どもたちが伸び伸びと自分を表現しやりたい活動に十分取り組むことができた。	・職員の意識の変化につながったものの判断基準が職員で異なる場合もあった。そのために必要となる話し合いの場も日々の目の前の活動に追われ思うように進まず、共通の視点をもつこと、長期的な育ちに視点を向けることの難しさを感じた。 ・一人一人が自己表現し伸び伸びと活動できる一方で、集団となったときに必要な道徳性や社会性をどのように育てていくか、個の特性をどう集団に生かしていくかが課題としてある。子どもたちの育ちはつながっている、経験させてあげることが大切という助言を念頭に置き、年齢を超えて子どもの育ちを見守り、短期的、長期的なねらいを意識しながら保育を組み立てていけるよう今後も話し合っていきたい。
全体	・アストロキャッスルの使用では、今まで年齢別で区切っていたり、個別に判断したりとその都度対応を職員間で話し合い、遊べるようにしていたが、伊藤先生の助言を受け、アストロキャッスルが設置された時のねらいと今の職員がもつねらいが一致しないことに気が付き、遊具があるからという理由で無理に使用することなく、別の遊びや活動にねらいや重きをおくことで、子どもたちは今まで以上に友達と関わりながら遊んだり、集団で遊ぶ楽しさに気が付くきっかけになったりした。	・遊具のねらいを見直し、無理に使用しない選択ができたことで、子どもたちの集団遊びが深まった。一方で、「使わない」判断をすることへの戸惑いや代替となる遊びの提案に難しさを感じる場面もあった。今後は、遊具や活動のねらいを定期的に振り返り、子どもの姿に合った環境構成や遊びの選択ができるよう職員同士での話し合いを継続していくことや子どもの姿や育ちにとって何が必要かを職員同士で対話しながら保育を再構築していきたい。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	子どもの最善の利益を考慮し、「それは本当に子どものためになっているのか？」という視点を大切にし、職員間の対話、所内研修を行いながら保育に取り組んだ。固定観念にとらわれず柔軟な保育の実践は、子どもの気持ちに寄り添う保育につながった。保育の中での疑問・不安等は、外部講師の助言や、職員間で対話を繰り返し、職員の資質向上につなげた。
--	--

【2】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別指導計画	市内共通カリキュラムを基に、全体的な計画、月指導計画(乳児)、週指導計画を作成し、実践、振り返りをした。週案会議でクラスの様子、遊びなどを伝え合い、共通理解しながら保育を行うことで、異年齢交流の機会が増え遊びの充実につながった。また、配慮の必要な子どもの個別指導計画を作成し、個々の発達に必要な支援を行うことができた。
---	--

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	送迎時に保護者と子どもの様子を伝え合い、クラスボードやドキュメンテーション・保育所だより等で、子どもたちの様子や保育の意図等を発信し、保育の可視化に努めた。小中学校との交流会や職場体験の受け入れの実施、プルタブ等を集め社会福祉事業団へ届けるなど小さな取り組みだが地域とのつながりを継続している。
--	--

＜まとめ＞

昨年度、「個性に寄り添うことでうまれる環境構成と保育者の関わり」というテーマで保育を進めていき、他の職員とも情報共有や話し合いを重ねることが必要だと感じた。また、個人の価値観で偏らずに保育所全体で一人一人に応じた保育を行うことの難しさも感じた。そこで今年度は「それは本当に子どものためになっているのか？」という視点を大切にしながら、保育者自身が価値観を問い直し、固定観念にとらわれずに保育を再構築していこうと「第2保育所の『なぞルール』さがし」をサブテーマに設定した。

実際に、普段の保育で感じている疑問点を職員間で話し合っていくと、今まで当たり前に行っていたことや疑問に思っていたが、なかなか言い出せなかったことなど様々な『なぞルール』が見つかった。そして、保育所全体で一人一人に応じた保育につなげるためには、どうしていくことがいいのか話し合いを重ねた。その結果、今まで以上に職員同士が日常的に声を掛け合い、言いづらさや価値観の違いにも向き合える関係につながっていったり、子ども一人一人が安心して遊びに没頭できるよう、クラス間・職員間の壁を取り払う工夫をしたりとより保育の質を高められたように思う。また、根拠のない『なぞルール』が存在し、子どもの行動や育ちを制限しているかもしれないと気付けたことで、今まで以上に主体性を大切に一人一人に応じた保育を行うことにもつながり、実際になぞルールを見直すことで着替えや支度のタイミングを子どもたち自身が決めたり、自由に遊びたい場所を選択したりという姿が見られるようになった。

巡回指導で助言を受け、「保育所は、集団で過ごすための力を養う場所なのではなく、一人一人が育っていくために集団の力を使っていくための場所」だということを学ぶことができた。そして、今回の研修で改めて、保育所全体で一人一人に応じ、寄り添った保育を行うことの大切さや、職員同士が考えや思いを共有し合い、対話を重ねていくことが欠かせないという事を再認識した。今後もそういった視点を忘れず子どもの姿や育ちを丁寧にとらえながら学び合えるようにしていきたい。また、固定観念やこれまでのやり方にとらわれず、柔軟に保育を見直していくことで子どもたちがより安心して自分らしく過ごせる環境を整えていきたい。

令和7年度
所内研修まとめ

市立保育所・認定こども園共通テーマ

「生きる力を育む」

第3保育所サブテーマ

「夢中になって遊べる環境構成と援助」



東金市立第3保育所

市内保育所・こども園共通テーマ 「生きる力を育む」

<昨年度の反省・課題点として>

子ども同士の関わりの中から保育者が遊びの環境を整え工夫していったことで、子どもたちが主体となり、遊びを展開していくことができた。しかし、心の育ちは一人一人違い、目に見えないため、何をもって心が育ったのかという判断の難しさがあった。

<子どもの姿>

- ・異年齢と関わったり、好きな遊びを楽しんだりする子もいるが、自分の好きな遊びが見つからない子がいる。
- ・友達と話し合いながら遊ぶ姿も少しずつできたが、口調が強くなってしまう場面がある。
- ・遊びが単発的で継続性がなく、自分で考えて遊びを展開しようとせずに、すぐに保育者に答えを求める姿がある。

<保育者の願い>

- ・自分の思いを伝えたり、周囲に目を向けたりし、自分で考えて行動できるようになってほしい。
- ・友達と意見を交わし、試行錯誤しながら遊びを展開させていき、達成感や満足感を感じ、継続して遊びを楽しんでほしい。
- ・一人一人が好きな遊びを見つけ、夢中になって遊べるようになってほしい。



サブテーマ 「夢中になって遊べる環境構成と援助」

<仮説>

- ・保育者が子ども一人一人の特徴を理解した上で、良い関係性を築いていき、自分の思いを伝えたり、受け止めてもらえたりすることで気持ちが安定し、自己表現しながら友達と思いを共有し、遊びを楽しむことができるのではないかと。
- ・子どもの興味を拾い上げ、様々なことに挑戦できるように環境を整えることで、「これをやってみよう」「次はこうしたい」という思いに繋がり、単発的だった遊びが展開していき、好きな遊びを見つけて夢中になって遊ぶのではないかと。

<手立て>



- ・子どものつぶやきを見逃さず、興味や関心を探っていき、遊びのヒントを出しながら、自分で考えたり、保育者や友達に思いを伝えたりできるようにしていく。



- ・成功体験の積み重ねや失敗体験の学びから、試行錯誤しながら遊びを展開できるようにし、夢中になって好きな遊びを楽しめるようにしていく。



- ・子どもたちの「やってみよう」「こうしたい」という思いが実現できる環境を用意し、様々なことに挑戦し、達成感や満足感をえながら、更なる意欲へつなげていく。

<研究方法>

- ・週案会議や午睡の時間などを利用し、職員間で子どもの姿や遊びの様子などを伝え合い、環境構成の見直しや援助の方法を共通理解していく。
- ・巡回指導での助言を受け、保育の振り返りを行い、反省点や改善点を話し合い、見直しを行っていく。

【石井先生巡回指導】

第1回（7月18日）

＜全体＞

- ・室内、戸外ともに異年齢児で関わって、よく遊んでいる。
- ・保育者の思いがあり、こうなってほしいと願い保育者が環境設定し作ったものはコーナーである。子どもたちから始まった所は遊びの拠点である。遊びの拠点は、コーナーよりも遊びが発展していきやすい。好奇心→探求心→協同性に繋がっていく。
- ・泡遊びでは、同じ場所で長時間遊び続けている子がいた。好きなだけあって、手首の動きがとても良い。遊びで培った動きを何かに応用していけるといいのではないかな。例えば、卵やホイップクリームを混ぜるなど、家庭や園でのクッキングに繋がっていくと良いと思う。
- ・感触遊びを楽しんでいることは素晴らしい。しかし、五感を刺激する、免疫力を高める、ストレス解消、心の解放・安定、協同性や協調性を養うなど、それをどのように親に伝えていくかが大切である。
- ・シャワーでは、保育者の手があることで手を掛けすぎてしまう面もある。拭き残しがあり、不完全でもいいから自分で体を拭くことも良い経験になる。

＜総評＞

- ・異年齢児が混じり合い、関わってよく遊んでいると思う。それぞれが好きな遊びができており、良い保育ができています。子どもたちが、室内遊び、戸外遊びなど好きな遊びを選んで遊んでいる姿が見られた。また、子どもの遊びが保証されており、園児数が少く、保育者数が多いこと、園庭が広いこともあり、強いて言えば、子どもの数に比べ、保育者の人数が多く、子どもが大人を頼りすぎたり、必要以上に保育者の言葉数が多くなったりし、保育者の言葉掛けがダイレクトになってしまうため、その点に気をつけていくと良いと思う。人数が少なく、良い保育ができていたため、全クラス撤廃して保育をしてみても面白いかもしれない。

第2回（12月24日）

＜全体＞

- ・どのクラスも外と内の出入りの自由度が高く、部屋でじっくりと遊びたい子、外で体を動かして遊びたい子など、子どもたちが好きな遊びを選んで楽しむ姿が見られる。
- ・子どもが少なく保育者の数も多いため、援助が必要な子など一人の子どもに対し、大人が寄り添える環境が整っていて良いと思う。
- ・自然物遊びでは、さまざまな材料を用意してあり、やりたいと思える環境が整っていた。また、作った物を飾るだけではなく、美術館のようにライトアップしてみても楽しいかもしれない。
- ・もちつきを経験して遊びに取り入れて楽しんでおり、インプット→アウトプットできていた。
- ・2歳児が手作りのプレゼント（クリスマスのジンジャーマン）を年上の子どもたちにしていたが、年下から年上の逆プレゼントをしていたのが面白い。
- ・2歳児が食事前にテーブルを拭いたり、こぼしたものを自分で拭き、雑巾を片付けたりしていた。子どもたちがぶつからないように動きやすい導線ができており、こぼしやすい汁物なども子どもたちが運んでいた。

＜総評＞

- ・第3保育所は、園児に対して保育者の数も多く、とても恵まれているため、安心して好きな遊びを夢中になって遊んでいる子もおり、とても良いと思う。前期の保育者が多い分、言葉がダイレクトに子どもに届くため、言葉掛けや手を出しすぎないように気をつけていくと良いという助言があったが、今回は全く気にならない。日本語を母語としない子が在籍しているが、挨拶などに、その子の母語を取り入れるなど、母国語を大切にできるようにしていくと良いと思う。

【成果と課題】

	成 果	課 題
0,1 歳	・ 0,1 歳児は、初めて保護者と離れて生活する子もいるため、安心して好きな遊びがじっくりとできるように、発達に合わせた感触遊びや体を使った遊びを多く取り入れた。様々な素材に触れたり、探索活動が十分にできるようにしたりしたことで「やってみたい」という意欲へと繋げることができた。 ・ 指先を使った遊びや成長に繋がる遊び（ポットン落とし、引っ張るつまむ遊び等）を取り入れたことで、自分で身の回りの事ができるようになるために必要な動きへと繋げることができた。	・ 幼児やたんぽぽ組の年上児の姿を見て、真似してやってみようとする姿が多くなり、自分のできないに関わらず、興味をもった遊びに挑戦するが、特に戸外遊びでは、広範囲に広がりすぎてしまって危ない場面もある。子どもたちの発達に合わせながら職員同士声を掛け合い、連携を取る必要がある。
2 歳児	・ 子どもが興味を持った遊びや好きな遊びを見逃さず、職員間で話し合い、共通理解していくことで、その時の子どもの遊びに合った環境構成ができた。 ・ いつでも遊び始められる環境を整えたことで、友達を遊びに誘い、歌ったり、踊ったりし、表現する楽しさを味わう姿があった。 ・ 大好きなりサイトルごっこからフェスティバル、ハロウィン、鬼ごっこへと遊びが変化しながら継続して遊ぶことができた。また、異年齢児との関わりを持つことで、一緒に遊ぶ楽しさがわかり、自分から異年齢児の遊びに興味を持ち、参加して楽しむ姿がでてきた。	・ 好きな遊びや集団遊びを楽しんでいる子が多いが、視覚からの情報が刺激となり、自分から遊びだしてもすぐに周りに興味を持ってしまい、遊びが続かずに転々としてしまう子への対応や働きかけの難しさがあった。 ・ 遊びが変化しながら継続できた反面、玩具の取り合いや思い通りにならず手が出たトラブルになることも多くあり、小道具や衣装などを用意した時点で、自分達で出したり、片付けたりできる環境設定を工夫していく必要がある。
3,4,5 歳児 ひまわり組	・ 子ども一人一人と向き合い、興味のある遊びを探ったことで、興味や関心に合わせた環境構成を職員間で話し合って設定することができた。また、継続して遊びを楽しむ子の姿も見られ、改めて環境構成の大切さを感じた。 ・ 子どもの「やってみたい」「つくってみたい」を実現できるように環境設定したことで、子どもの達成感や満足感へつながり、自由な発想で作ったり、表現したりすることの楽しさを感じられるようになった。 ・ 遊びを通して、様々な経験をすることができ、自信や学びに繋がってきている。	・ 友達同士で同じイメージに向かって様々なアイデアを出したり、協力し合ったりする姿があまり見られなかった。子どもが主体となって遊びを広げられるような働きかけが必要であると感じる。 ・ 異年齢の交流は、遊びを通して深まってきているが、年上児への憧れや年下児に対しての優しい気持ちなど、お互いを意識し合えるような関わりが増えるように、きっかけを作っていくことが必要であった。
3,4,5 歳児 さくら組	・ 子どもたちからやってみたいことや好きなことを拾い上げ、環境を工夫していったことで、初めは興味を持てずにいた子も自分の役割を見つけ、遊びに参加する姿が見られるようになった。 ・ 電車ごっこでは、自然と異年齢の友だちと交流する機会となり、継続して遊びが続いたことで、自分達から遊びの準備をして楽しめるようになっていった。 ・ クラスの皆で遊びに必要なアイテム作りを話し合い、制作をする機会を設けたことで、自分達で作り上げた喜びや満足感、生活にも充実感が生まれた。	・ 電車ごっこの他にもいろいろな遊びが始まるが、なかなか遊びのイメージや発展が難しく継続して遊び込むことが出来なかった。子ども達が興味を持てるような新たな目線で子どもたちのイメージや遊びを広げられるよう工夫が必要だった。 ・ 子どもたち同士で考えて遊ぶ機会をもっと設けることができれば良かった。 ・ 個別な関わりを必要とする子への対応の難しさがあり、今後も個々にその子たちが集団生活の中で過ごしやすくなるようにしていくことが課題である。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	子どもの最善の利益を考慮し、一人ひとりの人格を尊重し子どもたちのつづやきに耳を傾け、「やってみたい」と思うことが実現できるよう職員間で話し合い取り組んだ。異年齢交流が盛んになる中で、安全面には十分注意を払い、職員間で連携して対応していくことができた。所内研修をはじめ、様々な研修から得た情報を時間外保育担当者にも回覧し共有することで、職員の資質向上につながった。
--	--

【2】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別指導計画	共通カリキュラムを基に、全体的な計画、乳児組月指導計画、週指導計画を作成し実践した。毎週、週案会議において子どもたちの様子などを伝え合い、保育の振り返りを行い次の実践につなぐようにした。所内研修を通して共通理解が深まり、異年齢交流も活発に行われ、遊びも充実し子どもたちの心の育ちにつながった。また、配慮が必要な子どもの個別指導計画を3期に分け作成し、個々の発達に合わせた支援を行う事ができた。
---	---

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	送迎時に保護者との対話を大切に子どもの様子を伝え合い、コミュニケーションを図っている。ドキュメンテーションの掲示や保育所日より、にじいろ通信等の中で、保育所の様子を保護者へ発信し、子どもたちの成長を共有した。行事ごとにアンケートを実施し、保育に対する評価や子育ての悩みなどを拾い上げ、希望者には個別面談を実施した。地域においては、積極的な交流は出来ていないが、地域コミュニティセンターの掲示板を活用し、保育所の様子などを発信した。
--	--

《まとめ》

昨年度、子どもたちが主体となり遊びを展開する姿や異年齢交流をしながら好きな遊びを楽しむ姿がでてきた。しかし、遊びが継続しなかったり、すぐに保育者を頼り、答えを求めたりする姿があるという課題もあった。そのため、今年度は、「夢中になって遊べる環境構成と援助」をサブテーマにした。

日頃から職員間で子どもの姿や遊びの様子などを伝え合い、環境構成の見直しや援助の方法を共通理解できるように保育の振り返りを行いながら保育を行ってきた。

職員間で連携を図り、遊びのイメージが膨らむ環境を整えたことで、クラス全体が参加できる遊びへ展開することができた。また、子どもの「やってみたい」「作ってみたい」を実現できるようにしてきたことで、自由な発想で作ったり、表現したりすることの楽しさを味わい、子どもの達成感や満足感へ繋げることができたのは、大きな成果だったと思う。

絵を描いたり、作品を作ったり、一人一人が得意なことを遊びに取り入れながら電車ごっこや恐竜ワールドなどを進めてきたが、友達と一緒に活動することに抵抗のある子への対応の難しさもあった。保育者が電車やジャングルなどを作る際に良くしようと手を出しすぎてしまったのではないかと反省点もあった。完璧な形ではなく、不格好だとしても子どもたちにとっては、自分達で作上げた物への愛着や達成感があり、もっと遊びこむ姿が見られたのではないかと感じた。また、異年齢交流や保育室を自由に行き来して遊んでいるが、保育者に言わず行ってしまう子がおり、危機管理の面からも子どもの所在をはっきりと把握できる工夫が必要であった。

遊びを通して様々な経験をしてきたことで子どもたちが自信を持つことができ、それぞれの学びに繋がってきたように思う。子ども一人一向き合い、興味のある遊びを探ったことで、職員間で話し合いながら興味や関心に合わせた環境構成を設定することができた。継続して遊びを楽しむ子の姿も見られるようになってきているため、日々の保育を振り返りながら、好きな遊びを夢中になって遊べるように環境構成を整え、援助を行いながら保育をしていきたい。

令和7年度 園内研修まとめ

市内保育所・こども園共通テーマ
「生きる力を育む」

豊成こども園サブテーマ
『とびだせ！「やってみたい」が見つかる戸外遊び』



豊成こども園

市内保育所・こども園共通テーマ
『生きる力を育む』

☆昨年度のサブテーマから…

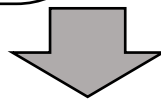
「やってみたい」の気持ちをもてるような環境を考え設定してきたことで、保育室内だけでなく廊下やホールへと遊びを展開し、子どもたちも自己選択・自己決定しながら行動できるようになってきた。職員間でもこまめに連携を図り、環境の再構成をしながら異年齢で遊べる場を継続して整えることができたが、園庭では環境を活かしきれず、もっと園庭を活かして遊び込めたのではないかと課題があった。今年度は、戸外遊びに視点を置き、一人一人の「やってみたい」が見つけられる、バリエーション豊かな環境作りをし、一人一人の遊びの変容を研究していく。

＜子どもの姿＞

- ・徐々に園生活に慣れ、好きな遊びを楽しむ姿が見られるようになってきた。
- ・リレーやうんてい、鬼ごっこなど年上児の遊びを見て同じ遊びを楽しむ姿が見られるようになってきたが、遊びに入れない子もいる。
- ・昨年度までのつながりが継続し異年齢で遊んできた経験から、年上児の遊びをモデルにして自分たちもやってみようとする姿が見られる。

＜保育者の願い＞

- ・戸外遊びの中にある自然や環境から、自分のやってみたい遊びを見つけて新しい遊びに挑戦してほしい。
- ・今まで異年齢で遊ぶ経験が少なかった子も、戸外遊びや散歩を通して、一緒に遊びを楽しめるようになってほしい。



サブテーマ
とびだせ！「やってみたい」が見つかる戸外遊び

【仮説】

- ・バリエーション豊かな環境、一人一人が自分で選択し伸び伸びと遊べる環境を整えていくことで、一人一人の「やってみたい」が見つかるのではないかな。
- ・戸外遊びや散歩での子どもの姿を職員間で共有し、共通の援助や環境設定していくことで、異年齢児との関わりが、自信に繋がったり、他児の姿からやってみたいと挑戦する気持ちが芽生えたりするのではないかな。

【手立て】

- ・戸外遊びや散歩での子どもたちの姿から、その子なりのやってみたい遊びや、挑戦しようとしている姿を見つけ、「やってみたい」と思えるような環境作りをしていく。
- ・戸外でどのような遊びをしているのか、保育者間で共有し、遊びの発見や広がりを見つけ、更に盛り上がる方法や環境を考え整えていく。

【研究方法】

- ・週案会議で、戸外や散歩での様子や遊びの経過を話し合い、報告することで意見交換や共通理解を図り環境の見直しをしていく。
- ・戸外遊びの経過や遊びの展開した様子、様々な環境を写真に撮り、記録する。
- ・巡回指導での助言を受け、改善点や反省点を話し合い見直しをしていく。

【伊藤先生の巡回指導を受けて】

第1回目（6月20日）

【乳児】

- ・2歳児クラスのコーナー設定が多く、一人一人の安心できる場がたくさんあり良かった。
- ・カエル観察コーナー：カエルと私だけの世界を作れたり、生の体験ができたりする環境があって良かった。

【幼児】

- ・5歳児ジャングル：一昨年、（今の5歳児が3歳児だった時）遊びがなかなか充実しないとのことだったが、経験したことを年下児にやってあげたいという思いから遊びが充実していて良かった。今困っていることがあっても1、2年後には変わっているから信じて見守ってほしい。子どもによってやりたい物が生かされていた。
- ・4歳児海コーナー：一人一人のやりたい事や、得意な事がコーナーの中にあって良かった。遊びの中で、引っ張っていく子と、それをきっかけに他の子も発言できるようになるしかけをしていけたら良いと思う。
- ・戸外遊びで、水鉄砲、プール、砂場と3つの遊び場が設定されていて良かった。（第三の場所は大事）

【全体】

- ・各クラスの担任がクラスの子どもの様子をつかんでいて、必要な活動や課題が捉えられている。
- ・一昨年のサブテーマ「異年齢交流」が今も活かされていて、自然と異年齢交流が行われていて良かった。縦の繋がりは今後も大事にしてほしい。
- ・子ども主体的になるためには安心感が大切なので、これからも丁寧な関わりをしてほしい。
- ・日頃の遊びの中に幼児期に身に付けたい36の動きは沢山あるので、意識してみると良いと思う。サーキット遊びでは、子どもたちがやってみたい体の動きにマッチしているから、長時間遊んでいたのだと思う。子どもの成長に合わせて、一部分ずつ変えていったら良いと思う。



第2回目（10月31日）

【乳児】

- ・2歳児クラス：散歩に行き、オタマジャクシを捕まえた所にかえるを帰してあげるという場面外に出掛けて行くと、色んな発見があり園内だけでは味わえない気持ちも味わえて、地域の良さを活かした保育で良いと思う。近所を散歩する中でも、36の基本動作のいろいろな体の機能を使っていると思う。

【幼児】

- ・戸外でもどんぐり制作の場があり、走り回るだけでなく落ち着いた遊びをやりたい子もいると思うので、テーマの中にある「やってみたいが見つかる」の1つに、このような場所があることは良いと思う。
- ・3歳児制作：ラーメン屋さんのようなテーブルカウンターが、面白い場所で良かった。
- ・4歳児海コーナー：6月より立体化し、興味関心がずっと続いていたり進化したりしていて良かった。
- ・5歳児箱庭遊び：箱庭で病院を作っていた。自分の思い描いている世界を小さな空間に作っていくことで自分の気持ちを箱の中に表したり、気持ちを落ち着かせたりできる面白い遊びだと感じた。みんなで座れる広さの制作テーブルがあることで、お互いの作っている物が見えて意識し合えるので良い。

【全体】

- ・前日の室内でのシール探しから、自分たちでも「やってみたい」ということで当日の活動（かぼちゃ探し）に繋がっていた。子どもの遊びの流れに沿った毎日になっていて良かった。日々の保育からやっているからこそ、子どもも発言できているのだと思う。
- ・遊びの中で、保育者も子どもと同じ遊びを共有していたことで、子どもも嬉しそうで良い雰囲気的环境であった。

【成果と課題】

	成果	課題
乳児	- 異年齢児と遊ぶことに少しずつ慣れてきて、年上児の動きを真似しようとする姿が見られた。 - やってみたいと思った遊びに意欲的に参加できるようになった。室内では36の基本動作の中からできるものを遊びに取り入れ、身体機能の向上へと繋がられた。 - 散歩を通して四季の自然や生き物に触れ、興味や関心が深まっていた。 - オタマジャクシからカエルになるまで大切に育て、自然に帰すという貴重な経験ができたことで生き物への興味や愛着に繋がった。 - 散歩では園庭では得られない傾斜やでこぼこ道など、様々な動きを経験できたことで、体力がつき、体の使い方も上手になった。自然の中で伸び伸び遊ぶことで心も強くなり、勇気や友達を思いやる心にも繋がった。 - 雨の日もレインコートを着て、戸外に出る機会を作ることで、様々な発見を楽しめた。	- 異年齢児の関わりをもっと増やしていけるよう、職員間で連携できれば良かった。 - 室内で楽しんでいる遊びを戸外に設定することが難しく、環境作りが思うようにできなかった。年上児が展開している遊びには積極的に参加できていたので、もも組からも発信できたら良かった。 - 散歩では、安全に配慮した人員配置やコース確認は引き続き必要だと感じる。 - 危険を取り除きすぎてしまうと子どもが自分で考えたり、回避したりする経験を奪ってしまうこともあるので、見極めて職員全体で共有していくことが必要だと感じる。 - 地域の方々の理解を得ながら、行先や交流をもてる機会を増やしていけたら良いのではないかな。
幼児	- ホールでのウレタン積み木を使ったサーキットを楽しんでいたのも、牛乳パック積み木を作り戸外でもサーキットを楽しむことができた。 - ハロウィンカード探しでは、室内で遊んでいたことを戸外に広げて楽しむことができた。 - 室内で遊んでいた自然物タペストリー作りを戸外にも場を設定したことで、異年齢交流に繋がった。 - ダイナミックな遊びや落ち着いた遊びなど一人一人がやってみたい遊びを見つけて進んで楽しめていた。	- 遊びが短期間で終わってしまう傾向にあったので、継続的に楽しむための環境設定をしていく必要がある。 - 牛乳パック積み木だけでなく、平均台やフラフープなどの道具を増やして遊びを広げていった方が良かった。
全体	2歳児のカエルの餌探しを園庭でしていたことがきっかけとなり、異年齢児で餌探しが始まり、生き物への興味を深めることができた。飼育の状況を職員間で共有していたことで、できたと感じる。 - ウレタン積み木を使ったサーキット遊びから、子どもたちで考えて自由に組み立てられる牛乳パック積み木を作ったことで、家作りやお玉リレー、一本橋渡りなど全学年が形を変えて遊びを楽しむことができた。 36の基本動作を取り入れていく中で、この遊びはどこに効果があるのかを考えることができた。職員間でも遊びの中で足りていない動きを把握し、次の遊びへと繋がられた。 - 異年齢児で遊ぶための環境を保育者が意図的に整えてきたことで、関わりが自然とできるようになってきた。	- 戸外の遊びは天候にも左右されるため環境を整えたり、遊びの継続をしたりすることが難しかった。その分、職員間で遊びの共有を図り、盛り上げていく必要があった。 - 異年齢児での関わりを増やすために、一緒に遊べるコーナーをもっと設けられたら良かった。 - 散歩に出掛ける中で、園外の自然環境にも目を向けてさらに自然との触れ合いができれば良いのではないかな。 36の基本動作を取り入れてきたが、足りない動きがあることに気付いた。改めて体の動きを意識した遊びやコーナーを設定していく必要があった。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	保育者は、子ども一人一人の人格や個性を尊重し、「やってみたい、やりたい」という気持ちが実現できるように保育環境を整え、共通理解を図った。登降園時など保護者との対話を大切にし、家庭との連携をとり、子どもの健康及び安全な環境の管理に努めていくようにした。外部講師よりアドバイスをいただき、園内研修や週指導計画会議で保育の振り返りや意見交換などをし、職員全体の保育の質の向上に繋げた。
--	--

【2】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別指導計画	市内共通カリキュラムをもとに、子ども一人一人の様子や個性を捉え、研究テーマを踏まえた全体的な計画、月指導計画、週指導計画、個別指導計画を作成し、保育に取り組んだ。園舎内で十分楽しんだ遊びを戸外でも楽しみたいという気持ちをもって、遊びが大きくなり自然と異年齢交流ができていた。その関わりの中で、やさしさや思いやりの気持ちの育ちに繋がったのではないかなと思う。
---	---

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入所する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	保護者が安心して子どもを託せるように丁寧な対話を大切に、クラスボードやドキュメンテーションを掲示し、保育の可視化に努めた。月2～4回の園庭開放を実施し、利用者も多く個々の子育て支援や相談に応じた。小学校との交流会や食生活改善会による「手洗い教室」、地域の方のご厚意により、チューリップ畑やイチヨウ畑の散策をさせていただき、園ではできない貴重な体験をすることができた。
--	--

【まとめ】

今年度は戸外遊びや散歩に視点を置き、『とびだせ！「やってみたい」が見つかる戸外遊び』というサブテーマに沿って各年齢で遊びを展開してきた。

研修では、室内・戸外それぞれの遊びの姿や環境構成についてグループごとに話し合い、意見交換を行った。どの年齢も室内で盛り上がっている遊びをどのような形で戸外に展開したら良いかを考え、日々職員間でアイディアを出し合いながら活動を進めてきた。園全体では異年齢で楽しんでいたサーキット遊びを戸外へ繋げるために、牛乳パック積み木を子どもたちが作れるように環境を整え、自分たちで遊びの場を作る楽しさを感じられるようにした。

秋には、ハロウィンシール探しゲームを楽しんだことで、戸外ではカード探し遊びへと展開した。また、自然を活かした遊びも広がり、タペストリー作りからケーキ作り、ケーキ屋さんごっこへと展開したり、キャンプコーナーを設定して自然物に触れて遊んだりした。どの遊びも異年齢で楽しめるような環境となっていたので、年上児の姿を見た年下児が刺激を受け、戸外でも「やってみたい」を見つけれられたのではないかなと思う。2歳児クラスでは散歩先で見つけたオタマジャクシを飼育しカエルへと育つ過程を見守ってきたことから、物では味わえない生き物ならではの变化に気付くことができ、貴重な経験になった。自然が豊かな環境であることから、園内だけでなく、園外の恵まれた自然環境にも目を向けてさらに自然との触れ合いができれば良いのではないかなと思う。

巡回指導では「幼児期に身に付けたい36の基本動作」があることを学び、その基本動作を遊びや生活の中で取り入れられるようにした。各クラスに36の基本動作の一覧表を掲示することで、足りない動きは何かを把握し遊びの中で誘い掛けたが、まだ足りない部分があると気付いた。一人一人が遊びの中で経験する動きがどれも大切になってくことを知り、改めて体の動きを意識した遊びやコーナーを設定していこうと感じた。

園内研修を通して様々な意見を共有し、新たな発見や学びへと繋げることができた。子どもたちの遊びを広げていくためには職員同士が子どもの姿を共有し、共通理解をもって環境を見直していくことが不可欠であると改めて感じた。今年度の実践を通して得た学びを今後の保育にも活かしながら、引き続き子ども一人一人の思いを大切に、「やってみたい」を育む保育を全体で進め、保育の質の向上へと繋げていきたい。

令和 7 年度 園内研修まとめ

共通テーマ「生きる力を育む」

サブテーマ「自然を通して様々な体験を楽しもう」
～地域との繋がりから遊びを深めよう～



東金市立福岡こども園

市内保育所・こども園共通テーマ 「生きる力を育む」

子どもの姿から・・・

- ・昨年度、子どもたちと一緒に散歩マップを作ったことをきっかけに、地域を身近に感じ、親しみがもてるようになった。
- ・田んぼ道での虫探しやザリガニ釣りなどを楽しんだ経験から、子どもたちが散歩マップを見て、「ここに行きたい」「先生、そろそろザリガニ釣りができるよね」という意見が出るようになった。
- ・地域の方（麦畑）との繋がりが少しずつでき始め、今年度に入り、5歳児は、園にあるものより大きなこいのぼりを友達と揚げさせてもらった。
- ・散歩に出かけて、鳥の声や木の葉や花の匂いに気づく子の姿が見られてきた。
- ・園外では、自分たちで考えて遊びを工夫したり、友達と力を合わせて遊んだり、やってみたいことに挑戦する子もいるが、園庭では、保育者の姿を追って遊ぶ姿が見られる。



- ・「やってみたい」ことにどんどん挑戦してほしい。
- ・自然遊びのおもしろさや遊びの楽しさをもっと知ってほしい。
- ・豊かな自然の中で、五感を育ててほしい。

サブテーマ 「自然を通して様々な体験を楽しもう」 ～地域との繋がりにから遊びを深めよう～

【仮説】

- ・今までの自然遊びの経験を活かしたり、外部の方のアドバイスを取り入れたりすることで、もっと遊びが発展するのではないかな。
- ・園外での遊びを園庭に持ち込み、遊びのコーナーを作ることで、乳児組も自然遊びの体験ができ、異年齢の繋がりが深まるのではないかな。
- ・協力して、力を合わせていくことで、友達との関わりがより深まっていくのではないかな。

【手立て】

- ・地域の方を招いて、自然の中で様々な体験をしていく。
- ・散歩の年間計画を立て、安全面に配慮し、感受性を育てる。
- ・昨年度作った散歩マップや職員配置図を活かして散歩に行く機会をもつ。
- ・保護者にドキュメンテーションを掲示し、子どもの姿を発信していく。
- ・子どもの興味・関心を大切に、時季を見逃さず遊べるようにする。

【研究方法】

- ・地域の方を講師に招き、自然物を使った玩具作りを教わったり、一緒に散歩に行ったりする。
- ・巡回指導での助言を受け、反省・改善点を話し合い、課題の見直しをしていく。
- ・園内研修を通して散歩の様子や場所の検討をし、作成したドキュメンテーションをもとに情報交換を行う。
- ・散歩の下見をして、職員間での共通理解を図っていく。

●第1回巡回指導を受けて（6月）

【乳児組】

- ・子どものやりたいことを実現できる環境が整っている。
- ・信頼できる大人の存在があることで安心感となる。
- ・戸外遊びでは、体の発達・探索活動・自然体験・泥遊び・探求心を育てていく。
- ・家庭でインプットした体験を遊びに取り入れていくとよい。
- ・ふりあそび・つもりあそび・年上の子との関わりをもっと育てていくとよい。
- ・2歳児は、自分でできることは自分でやってみるとよい。（給食時の配膳等）また低年齢児からの体験の積み重ねが大事である。
- ・低年齢児にも、自己決定、自己選択、自己解決することが大切となる。

【幼児組】

- ・保育者は、子どもに言いたいことがあっても30秒は我慢する。大人が言い過ぎず、子どもに考えさせるような言葉掛けを意識するとよい。
- ・自分でできることは、自分でやる機会を大事にする。
- ・子どもたちを待たせる時間を作らない。
- ・好奇心・探求心・共同性を育てていく。
- ・地域の方々との関係をより一層根付いたものとしていくために、その時季でしか味わえない体験を子どもたちに知らせ、どんな保育をしていくのか職員間で検討していくようにしていく。
- ・子どもの自主性と主体性の違いを捉え、子どもが「こうしたいからやる」と考えて行動していけるようにする。
- ・遊びの拠点作りをし、子どもが安心して遊びを楽しめるものとなっているかを保育者が考え、環境構成し子どもの姿に合わせて保育の再構成を築いていくことが大事である。
- ・子どもと保育者が「五感と五官」を通して楽しさを共に感じる。豊かな自然環境の中で「センス・オブ・ワンダー」を育てていく。

●第2回巡回指導（10月）

【乳児組】

- ・0・1歳児であっても物のイメージをしっかりと伝え、子どもたちが遊びを通して主体的になれる保育環境が構成されていた。
- ・保育環境の一つとして窓ガラスの様々な活用方法を考えていくとよい。
例）影絵、光の動き、セロハンでの光遊び等
- ・子どもが経験できていない単純な動作を保育活動に取り入れていくようにする。
- ・何に興味があるのか、子どもたちが家庭で体験したことをアウトプットできる保育環境が大事である。
- ・2歳児の給食の配膳は、自分でできることは自分で行う姿に変わりよかった。
- ・乳児組は、幼児組と保育室が離れているため、関わりが少ない。接続期間等を早めに進めていくことが重要であり、幼児組の遊びの姿から観察・模倣をして、学ぶ機会を大切にしていくとよい。

【幼児】

- ・現在、保育室の並びが4→3→5歳児と3歳児が中央の並びになっている。3歳児のお化け屋敷が4、5歳児に遊びが広がっていき、3歳児が両方のクラスを行き来したことでイメージを共有し合いながら遊びを深め楽しむことができた。
- ・3歳児のお化け屋敷では、自分から並んでいき主体的に遊びを楽しむ姿があった。
- ・5歳児がミイラ男となり、遊びに参加したことで3歳児の遊びのモデルとなった。
- ・4歳児が、保育室のトイレにミイラ男が入って汚した場所をきれいに拭く姿があり、自分で決めて行っている姿がよかった。
- ・4歳児のピタゴラスイッチ（転がしゲーム）の取り組みはよく、子どもが思考錯誤し学びの基礎に繋がった。（理科的小2、3年生的な活動である）
- ・今後の5歳児の姿として5～6人で行う共同性の活動、遊びの再構成を育てていくことが大切である。
また、保育者が一緒にやったり、モデルとなったり、子どもたちにとってどんな学びに繋がっていきたいのか、そしてどのように引き出していくのが大切になってくる。
- ・布団敷きは、保育者が見守り、子どもたちが主体的に取り組んでいる姿はよかった。

●園内研修の成果と課題

	成果	課題
0・1歳児	・始めは感触遊びに抵抗を示す子がいたが、経験を重ねるうちに、積極的に遊びに参加できるようになった。保育者の声掛けや援助でやられるのではなく、子ども自身が活動を楽しんでいた。 ・園庭の自然を目にしたり、触れたりする中で、気付きや発見を共有するよう心掛けてきたことで、子ども自身が気付き、反応を示すことが多くなった。	・酷暑のため、散歩や戸外で夏の遊びを存分に楽しむことができなかったのは、残念であった。 ・自然を感じることは比較的できたように思うが、自然に触れることは、素材に限りがあり、限定的になってしまったように感じる。散歩等、活動の範囲を広げていけるようになると、新たな自然との関わりの姿が見られ、体力作りにもなると思う。
2歳児	・園内、園外共に身近な自然に触れ、保育者や友達と一緒に様々な発見や体験を通して五感が刺激され、一人一人の成長につながった。また、友達とのやり取りや関わりが増え、自然物を取り入れた遊びを楽しめるようになってきた。 ・園内の自然で楽しく遊ぶことができた。(オシロイバナの色水作り、落ち葉のクッションや虫探し・観察等)	・安全面を考慮し、散歩に行く時季や行き先を検討する必要があった。また、事前の下見や危険箇所について職員間で話し合いを行っていく。 ・自然は、子どもたちにとって豊かな経験をするためのきっかけとなるが、保育者自身の知識があまりなく、リスクも大きいので、研修等を通して自然について学び、職員間でかぶれてしまう葉や危険な虫、生物等、情報の共有をしていきたい。 ・異年齢交流を多くもちたかった。
3歳児	・散歩に出掛け刺激を受けたことで、興味・関心が掻き立てられ、探求したり、思考を巡らせたりする姿が増え、園庭でもその姿が見られるようになった。乳児期の経験が土台になっていることを改めて感じた。 ・遊びの拠点作りや子どもが選択することを保育の中で意識したことで、子ども主体で遊びが進み、友達とイメージを共有したり、役割や順番を交代したりして遊ぶ姿が見られるようになってきた。	・子どもの興味や関心を受け止め共感し、それに応じた援助や環境作りを行っていく大切さを改めて感じた。 ・園での取り組みや意図をわかりやすく伝え、保護者と共通理解をしていけるようにしたい。 ・4、5歳児が遊びのモデルとなることで、3歳児も遊びをイメージしやすく、楽しさを共有できていた。保育者の存在を消すこと、子どもの姿に応じたさり気ない援助や関わりをすることを心掛けていきたい。
4歳児	・自然の豊かさに気付き、五感を子どもたちと共感しながら過ごし、疑問に思ったことを保育者も一緒に調べていくことができた。 ・保育者の思いばかり先行しないように、子どもの心情を読み取り、環境を用意することでやりたい遊びを取り組めるようになってきた。 ・室内でのアイス屋さんごっこ等の遊びを戸外のテラスでも遊べるように設定していくことで、異年齢児との関わりが広がった。	・4歳児クラスでの繋がりが深まり、集団遊びや好きな遊びを取り組もうとする姿は見られるが、異年齢児との関わりが少なかったため、意図的に交流がもてるようにしていければ良かったと感じる。 ・園庭にも自然がたくさんあり、それを遊びや活動にしていけたことは良かったが、酷暑のため園外の自然に触れる経験が少なかったことは、残念だった。その時季にしか味わえないことを見逃さないようにしたい。
5歳児	・子どもたちのやりたい気持ちを大事に保育するよう心掛けたことで、保育者に聞いたり、確認したりせずに、自分で考えて行動することが増えた。 ・ときがねウォッチング等、地域の方との交流を行ったことで、保育者の学びにもつながった。また、そこで学んだことを、他学年の友達に教えようとする姿も見られた。 ・散歩の機会が増えたことで、自然に五感を通し、気付きや発見・試行錯誤する姿が見られた。	・酷暑のため、思うように散歩に行く機会を作れなかった。3学期は子どもの気持ちを大切にしながら、散歩の回数を重ねていきたい。 ・“大人が言い過ぎない”保育を意識したが、年長児と言うこともあり、どこまで声を掛け、見守るべきか迷うことがあった。子どものやりたいタイミングや必要なものを用意する環境設定を大切にしながら、保育者の柔軟な考えやアイデアが必要であることを改めて感じた。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	子どもの最善の利益を考慮し、安心・安全な保育環境作り、子どもの思いや考えを大事にした「子ども主体」の援助を心がけてきた。子どもの事故やけが、感染症等防止のために、職員一人一人が安全意識を持ち、安全管理ができるように共通理解を図った。また、ヒヤリハットの情報を共有し、園全体で周知出来るよう配慮をした。職員の資質向上では、自然との関わり・五感等について学び、考えながら保育をすることで、職員・子どもが「気付く」ことが多くなった。そして、子どもたちが自然遊びの楽しさを知ったり、五感で感じるが増えたり、様々な体験をすることができた。
--	---

【2】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別指導計画	全体的な計画・週指導計画等の作成、計画・実践・評価・反省をし、その都度振り返りを行い、子どもの姿に応じた保育をしてきた。週案会議や園内研修で子どもの主体性を大切にした保育について話し合い、職員が同じ方向を向き、保育をするようにした。巡回指導のアドバイスを受け、保育に活かし、声掛け、子どもが自己決定・自己選択・自己解決ができるような援助、環境の再構成等を意識した保育をした。次第に子どもが自分でやりたいと思ったことを選び、活動する姿が見られるようになった。
---	---

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入園する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	送迎時、保護者とのコミュニケーションを図ったり、クラスボードやドキュメンテーションで保育の可視化を心掛けたりすることで、保護者との信頼関係を構築し、子どもの成長を共有することができた。地域の方と一緒に竹を使った水鉄砲作り、こどもの日や節分、ミニ発表会等年間を通して交流の機会を設けた。小学校との合同避難訓練や交流会、近隣の商店での買い物体験等、多くの方々の協力のもと、様々な楽しい体験をすることができた。園庭開放では、繰り返し利用する親子が増えており、子育て支援に繋がった。
--	--

〇まとめ

子どもたちは、自然に親しみ触れ合いながら自分達の居場所（遊びの拠点）や遊び方を見つけてきた。今年度は、大幅な職員の入れ替わりにより安全面の周知や、春先より暑さで園外活動が思うようにできない日が続く中で、「どうすれば子どもたちが伸び伸びと自然に親しみ、安全を保障しながら活動を楽しむことができるのか？」を保育者それぞれが保育への思いを出し合いながら対話を重ねてきた。巡回指導において、「センスオブワンダーとは？」「コーナーと拠点」「自主性と主体性の違い」「五感と五官」等の保育のヒントを得て、保育者全員が自分達の保育を振り返り、固定観念にとらわれない、子ども発信のやりたい気持ちを探り、実現できる保育とはどのようなものなのかを模索した。

乳児組は「この年齢だから・・・」「まだ小さいから・・・」と決めつけることなく、本物そっくりの手作り玩具（消防車・消防服等）を作成したり、室内環境や運動遊びコーナー、室内水遊び場を設定したりした。幼児組は、室内足水、超大型ウォーターサーキットや草花の色水氷作り、雨の日の戸外散歩等、ユニークで工夫にとんだ保育を実践した。いろいろな活動を楽しんでいく中で保育が大きく回り始め、子どもと保育者があらゆる感覚を働かせて柔軟に保育のおもしろさを楽しめるようになってきた。秋になり、ようやく気温が落ち着き戸外遊びや自然散歩に出られるようになったので、ボランティアときがねウォッチングさんを招き入れ、ゆったりとした時間の中で、子どもの声や興味に応えたり、保育者自身も学びながら、一緒に散歩を楽しんだ。散歩での小さな発見や感動から、園庭でも葉の色や匂いで食べ物や連想したり、自然物の感触や形のおもしろさに気づき遊びに取り入れたり、鳥の鳴き声や風の音に気付く等自然への興味・関心が友達に広がっていく姿が見られるようになった。

年長児は散歩で集めた自然物を利用して、親子でリース作りを行い、より自然に親しみをもって活動を楽しむ機会につながった。そして園庭では、乳児と幼児が一緒に楽しめるように遊びの環境構成をしたことで、異年齢児との関わりが増え、刺激を受けたり、模倣したりして、遊びの幅が広がったように感じた。

今までにない発想、新しい保育の風が入り、子どもと保育者がいろいろな感性を互いに共鳴し合うことで、保育が変わることを実感した。今後も、子どもが遊びの中で、試行錯誤していける環境設定をしていきたい。

令和 7 年度 園内研究まとめ

『生きる力』を備えた幼児の育成

サブテーマ 「わくわくドキドキが生まれる環境作り

～伸び伸びと遊ぶ子どもたちを目指して～ 」

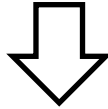


東金市立正気こども園

市内保育所・こども園共通テーマ 『生きる力を育む』

＜保育者の願い＞

- ・ 保育者や友達に親しみ、安心して自分のしたい遊びを楽しんで欲しい。
- ・ 友達と一緒に楽しい、一緒にできるという経験をたくさん積んで欲しい。
- ・ 様々なことに興味を持ち、自分で考えたり、他児から刺激を受けたりして、挑戦して欲しい。
- ・ 友達との関わりの中で、相手の話を聞いたり、自分の気持ちに折り合いをつけたりしながら、遊びを進めていく楽しさや喜びを感じて欲しい。



サブテーマ

「わくわくドキドキが生まれる環境作り～伸び伸びと遊ぶ子どもたちを目指して～」

＜仮説＞

- ・ 保育者が子どもと一緒に遊ぶ中で興味関心を見つけ、タイミングを逃さず援助することで「やりたい！やってみたい！」を実現することができるだろう。
- ・ 子どもが遊びの選択や試行錯誤することができる環境作りをしていくことで、伸び伸びと遊ぶようになるだろう。

＜手立て＞

【保育者の援助】

- ・ 子どもの気持ちに寄り添い、安心して園生活を送ることが出来るようにする。
- ・ ありのままの姿を受け止め、一人一人の発達段階や興味関心を探り、その子に合った援助をする。
- ・ 子どもたちと一緒にたくさん遊び、様々な感情を共有したり、子どもの何気ないつぶやきや疑問を見逃さないようにしたりする。
- ・ 子どもが今、何に夢中になっているのか気付き、タイミングを逃さず援助できるようにする。
- ・ 仲介や橋渡しをして子ども同士が関われるようなきっかけを作る。
- ・ 達成感や満足感を味わっている姿に共感し認めていく。
- ・ 遊びの選択や試行錯誤する気持ちを支えたり見守ったり、その子、その場に合った関わりをしていく。

【環境構成】

- ・ 職員が多いことを生かして、各保育室を自由に行き来し全職員で全園児を見ていく。
- ・ 広い廊下や遊戯室を活用し、コーナーを設定していく。
- ・ 一人一人が自分のしたい遊びを繰り返し楽しんだり、試したりできる時間や場を確保する。
- ・ すぐに遊びだせる興味関心に合わせた環境作りをしていく。
- ・ 用意された環境だけでなく自分で考えたり、ひらめいたりしたことを実現できるようにする。
- ・ 子どもたちがどのような遊びをしたいのかを探り保育を構想、計画していく。
- ・ 子どもの姿から必要な材料、道具等を準備していく。

＜研究方法＞

- ・ 保育の中で出た課題点や反省点をそのままにせず話し合う場を設け、共通理解を図ったり巡回指導等で頂いた助言を生かしたりしていく。その際、その時々でメンバーを替え、様々な意見を取り入れられるようにする。
- ・ 1 号、2 号認定と半数ずつ程いるため、話し合う時間を設けることが難しい状況にあるが、午睡時間を活用できるよう工夫して、気兼ねなく職員同士で子どもの話や遊びについて伝え合うことができるようにする。
- ・ 遊びの様子について写真を活用した事例をもとに意見を出し合い、成果と課題を見つけていく。

●第1回巡回指導を受けて（7月17日） 講師の感想（・）講師の助言（→）

＜3歳児＞

・様々な遊びがあり子どもたちがやりたい遊びを選択しながら遊んでいた。

→ままごと遊び（家庭的遊び）は3歳児にとっては大切な遊びの一つである。1年間かけて展開していけると良い。

→いきなり異年齢で交流をしながら遊んでいくことは難しい。まずは自分のクラスで安心して過ごしていくことが大切である。

＜4歳児＞

・制作コーナーでは様々な素材や道具があり、子どもたちもイメージを広げて作ることを楽しめる環境であった。

・子どもの声を拾い、すぐに素材を用意していた。その時の子どものやりたい気持ちを汲み取れていた。

→色々なコーナーがあったが、コーナーを作りすぎるのも遊びが発展していかない。現状のコーナー設定から遊びを広げていく方が良い。

＜5歳児＞

・遊戯室での運動サーキットでは子どもたち自身がコースや遊び方等を考え、設定している姿があって良かった。

→ごっこ遊びを楽しまなくてはいけないわけではない。作る過程を楽しむ子がいても良い。

→意識的に群れを作っていくと遊びが更に発展していけると思う。

＜園全体＞

・昨年度の巡回指導の時よりも遊びの環境や発展が工夫されていた。保育者間で話し合い、情報共有しながら保育が展開されていると感じた。

・廊下でのボウリングコーナーは常に先生がいて盛り上げていたので、多くの子どもが遊びに参加していて良かった。

→コーナーがたくさんあることは良いことだが、ありすぎると分散され子ども同士のやり取りが生まれにくい。環境を絞ってコーナーを減らすことも効果的ではないか。



●第2回巡回指導を受けて（11月5日） 講師の感想（・）講師の助言（→）

＜3歳児＞

・室内のコーナー設定や環境は適切であったため集中して遊んでいた。

→子どもたちの傍にいて、今何に興味、関心を持っているのか気付くことが出来るのではないかな。

→ままごとコーナーでは、保育者が傍について遊びを発展させていけると遊びが深まっていくと思う。

＜4歳児＞

・1回目の時と同様にみんなが制作を楽しんでいる姿があり、制作が好きなクラスだと感じられた。保育者も子どもと一緒に手を動かして、制作をしていたのでそういった姿が良かったと感じられた。

→やりたいことがあっても方法を知らない、アイディアが出てこない。主体的な思いを引き出すためにも扱い方や遊び方を知らせていくことも大切である。それらを積み重ねていくことで気づき、工夫していくことが出来る。

→保育者が離れると、どんぐりスライダーの遊びの発展が上手くいかなかった。着かず離れず難しいところはあると思うが、傍にいても良いと思う。

＜5歳児＞

・事前に読んだ絵本を参考にゴっこ遊びの話し合いを進めていた。子ども同士のイメージが共有出来ているように感じた。

・ダイナミックな遊びを想像するが、手先が器用になり細かく繊細な遊びも年長児ならではの姿であった。

→子ども同士の話し合いについて1回目の巡回指導では輪になっていたが、今回は椅子に座って同じ方向を見て話し合っていた。輪になった方がお互いの顔を見ることができ、意見も出やすい部分もあるので使い分けても良いかもしれない。

＜園全体＞

・戸外遊びでは複数のコーナーがあったため、固定遊具で遊ぶ子が少なかった。

・3歳児から5歳児までの発達を1年単位で区切らず、3年間を通して成長を考える。

《各年齢での研究の成果と今後の課題》

	成果	今後の課題
3 歳 児	• 自分のクラスや担任が安心できる場、存在になったことで、友達や他クラスにも興味を持ち、伸び伸びと遊ぶことができるようになった。 • ありのままの姿を受け止め、寄り添ったり共感したりすることで、保育者に自分の思いや困っていることを伝えることができるようになってきた。 • 異年齢児交流を通して、年長児年中児から面倒を見てもらい嬉しい気持ちや憧れの気持ちを持つことができた。その経験を生かして、同じクラスの友達に対して自分がしてもらったように、優しくやり方を教える姿が見られるようになった。	• 一人一人の発達段階に応じた援助を見極めることが難しかった。職員が多くいる利点を生かし、相談し、良い援助の方法を見つけていきたい。 • 発達に合わせて、使える材料や道具を増やしたが、タイミングを逃してしまうことがあった。今後はさらに、子どもの何気ないつぶやきや疑問に丁寧に耳を傾けていきたい。 • 異年齢児交流ができる場を意図的に設けてきたが、断続的になってしまうことがあったので、日常的に、自然と交流ができるような関わりをしていきたい。
4 歳 児	• 子どもの「やりたい」「やってみたい」が実現出来るように一緒に考えたことで、自分なりの発想が広がり、様々なことにも進んで挑戦しようとするようになった。 • 一人一人の興味を探り、様々な素材や道具等を自由に使えるよう環境を工夫してきたことで「やりたい」と思った時に自ら準備をして遊ぶことが出来た。 • 行事のみならずごっこ遊びや集団遊び等、同年齢での活動を意図的に増やしていった。みんなと同じ遊びをする中で、友達とのつながりを感じ、イメージや経験を伝え合い遊ぶようになってきた。	• 保育者が離れると遊びが継続しない場面があった。離れるタイミングの見極めや遊びが続いていくような工夫の仕方について担任間で話し合い、考えていきたい。 • 「やってみたい」と思っても自ら関わるのが苦手な子や自信が持てない子もいた。その子たちへの援助の仕方、興味を持てるような活動を考える必要があると感じた。
5 歳 児	• 子どものやりたいという意欲的な気持ちに共感し、盛り上げていくことでさらなるアイディアに繋がった。また、子どもたちと話し合いながら必要な環境作りをし、遊びを広げることが出来た。 • 自分から遊びを見つけることが難しい子に対して、一緒に遊びながら興味を探り、遊ぶきっかけ作りをしたり友達との橋渡しをしたりしてきたことで、自ら選び遊ぶことが出来た。 • 5歳児の遊びを他クラスにも知らせ、一緒に関わる機会を作ることで年下の友達に優しく接することができるようになった。	• 一緒に遊んでいく中で、子どもの期待感や達成感を受け止め、保育者も子どもと同じ目線になって楽しんでいきたい。 • クラスの中を見ると、様々な遊びに興味を持つ子もいれば、そうでない子もいるので個々の遊びの様子を見て、その場に応じた手立てを考える必要がある。また、様々な経験や体験が出来る環境を構成、展開していきたい。 • 異年齢での関わりは子どもたちにとって良い経験となるので、今後も行っていきたい。普段から行き来するような環境作りが出来るように職員間での連携を図っていきたい。

【1】 保育の実施運営・体制全般等に係る観点からの評価

●子どもの最善の利益の考慮 ●組織としての基盤の整備 ●社会的責任の遂行 ●健康及び安全の管理 ●職員の資質向上	子どもたちの現状を踏まえ、一人一人の個性を尊重し、伸び伸びと遊び、安心して園生活を送れることを願い、保育に取り組んできた。こども園移行2年目で、正気こども園の良さを生かす保育を探ってきた。園内研究を進める中で、少しずつではあるが、職員間の思いの擦り合わせができてきていると感じている。今後も子どもたちの健やかな成長のため、継続して研究を進め、職員の資質向上に繋げていく。
--	--

【2】 計画に基づく評価

●全体的な計画 ●指導計画 ●週日案 ●個別指導計画	市内共通カリキュラムを基に、全体的な計画、週指導計画、個別指導計画を作成し、実践、振り返りをした。職員会議、週指導計画会議などの話し合いの場で、クラスの様子や気になる子どもの姿を伝え合い、共通理解することで、全職員で全園児を見る姿勢で保育にあたることができた。また、配慮を必要とする子どもに対し、個別指導計画を立てることで、必要な援助が明確になり、より良い育ちにつながった。
---	--

【3】 家庭及び地域社会との連携や子育て支援に係る観点からの評価

●入園する子どもの家庭との連携と子育て支援 ●地域の保護者に対する子育て支援 ●地域における連携交流	保護者が安心してこども園に預けることができるよう、送迎時に丁寧にコミュニケーションを図り、信頼関係を築いてきた。また、園だよりやドキュメンテーション・クラスボードを通して、園での子どもの様子を発信し、子どもたちの成長を共有することができた。子育て支援事業の一環として、週一回程度の園庭開放を行った。未就園児を持つ保護者の子育て相談や交流の場として定期的な利用が増え、子育て支援のためのセンター的な役割を果たしている。
--	---

《研究のまとめ》

今年度 正気こども園では、「わくわくドキドキが生まれる環境作り～伸び伸びと遊ぶ子どもたちを目指して～」をサブテーマに園内研究を進めてきました。

始めに、『伸び伸びと遊ぶ』とは具体的にどのような姿なのか、『わくわくドキドキが生まれる環境』を構成していくためにはどのようなことを意識して日々の保育を行っていくか職員間で話し合いました。

次に、巡回指導でご指導いただいたり、仮説に基づいた実践を行ったりすると、成果や課題がいくつも見えてきました。これらのことから学んだことが3つあります。1つめ、保育者との信頼関係を築くことの重要性です。保育者との安心できる関係があるからこそ自己主張をしたり、友達に関心を持ち関わったりすることができるようになっていったのではないかと改めて感じました。また、担任だけでなく全職員で子どものことを見ていくという意識を常に持つことで、自分にはない、様々な視点や角度から子どものことを捉えたり、気付いたりすることができるとも学びました。2つめは、異年齢交流の充実です。ごっこ遊びの場所を廊下に設定したり、各部屋を自由に行き来できるようにしたりしました。交流していく中で、様々な刺激を受け、自分たちの遊びに取り入れたり、憧れや優しさ、頼られる嬉しさなどの感情を経験したりすることができたように思います。しかし、限定された遊びでの交流が多くなってしまったことが反省点で挙がり、日常的に自然と関わることができるようにしていくことが今後の課題です。3つめは、タイミングを逃さずに援助することの難しさです。子どもたちの「やりたい、やってみよう」を引き出したり実現したりするために、興味関心を探ろうと、一緒に遊んだり傍で支えたりしてきましたが、タイミングを逃してしまうことも多くありました。今後は今以上に、何気ないつぶやきや疑問を見逃さず、子どもと同じ目線に立ち、「環境と一緒に創る」という意識を持って保育していくことが大切だと思いました。

さらに、写真を活用した事例をもとに気兼ねなく職員同士で意見を出し合う時間を設けたところ、遊びについて話す機会になり、クラス内だけでなく、みんなで共有することができました。この話し合いをきっかけに遊びや子どもの思いに対する保育者間の対話が自然と増え、保育者間の連携や共有が深まってきたように思います。

最後に、反省と課題です。「わくわくドキドキが生まれる環境作り」をテーマに掲げ、研究を進めてきましたが、保育者が気付かない場面でも子どもなりに「わくわくドキドキ」を味わっている場面が多くあったのではないかと、子どもたちと保育者で思いが異なる場面もあったのではないかと考えるようになりました。これらの反省から、環境は保育者だけが作るものではなく、子どもたちと一緒に創っていくことの重要性を改めて学ぶことができました。今後はさらに、伸び伸びと遊ぶ子どもたちを目指して、職員が多い利点を生かし全職員で子どもの成長を見守るとともに、こども園が安心できる場、わくわくドキドキできる楽しい場になるよう一人一人に寄り添った援助や関わりを心掛けて保育していきたいと思っています。